

< 日本・アジアのキリスト教 > (演習 Seminar)

A:日程・場所

演習日 (前期) :4/9,16, 23, 5/7, 14, 21, 28, 6/4, 11, 25, 7/2, 9

場所 :キリスト教学研究室 (新館 8階、811号室)

B:テキスト

- 1.植村正久の日本論、植村正久著作集 1』 新教出版社 (前期)
- 2.高倉徳太郎 『福音的基督教』(新版) 新教出版社 (後期)

C:演習の意図・目標

・日本・アジアのキリスト教研究に向けて

- 東北アジア (朝鮮半島・日本・中国・台湾) のキリスト教
- 宣教師サイトからの視点との統合
- アジアにおける新しいキリスト教形成の可能性
- アジアの固有の課題とキリスト教 (アジアの近代史のコンテキストにおいて)
- フィールド・ワークにおける研究方法の確立
- 共同研究の実施

・日本キリスト教思想研究 近代日本とキリスト教思想との相互連関を中心に

1. 2001年度の矢内原忠雄、2002年度の内村鑑三に続いて
2. 近代日本 (天皇制・民族主義) とキリスト教
3. 明治期の日本キリスト教における神学の受容と形成
新神学論争、植村・海老名論争
4. 2005年度から、植村正久と日本のキリスト教的宗教哲学 (学問的キリスト教思想) の系譜

研究会との相互関係 :研究拠点の形成に向けて

『アジアと宗教的多元性』研究会 (現代キリスト教思想研究会)

『アジア・キリスト教・多元性』創刊号～第4号。

比較宗教学への招待 - 東アジアの視点から - 『晃洋書房 2006年

D:研究の現状

通史の試み

個別教派・教団・教会の歴史編纂

宣教師の伝記・書簡・公式の報告書

人物研究 (内村、新島、海老名、新渡戸、植村など)

新聞・機関誌などの基礎資料の整備

全体的に、日本キリスト教思想研究が、各地の研究グループレベルの議論を超えた、キリスト教研究としてまだ確立していない。

土肥昭夫 『日本プロテスタント・キリスト教史論』(教文館)

E. 植村と高倉

『キリスト教人名辞典』(日本基督教団出版局)より

1. 植村正久(1858-1925)

日本基督教会牧師、神学者。幼名道太郎、謙堂と号する。

江戸芝露月町に生まれる。生家は1500石の旗本。1868年に横浜へ移り、JHバラの私塾に学ぶ。73年5月にバラより受洗。S.R.ブラウンの塾(東京一致神学校)で伝道者を志す。80年、按手礼を受け、下谷一致教会牧師。87年、番町一致教会(後に、一番町教会、現在の富士見町教会)を設立。

日本基督公会から、日本基督一致教会、日本基督教会へ至る教会形成において指導的役割を果たす。

1904年、東京神学社(東京神学大学の前身)を設立し、神学教育と伝道者養成に当たる。

『日本評論』『福音新報』などを通して政治、社会、教育、宗教などに関して積極的に発言。カルヴィニズムを基調とする正統福音主義。

2. 高倉徳太郎(1885-1934)

日本基督教会牧師、神学者。京都府綾部町に生まれる。

第四高等学校在学中に教会に通い、東京帝国大学独法科に入学し、1906年に富士見町教会で植村正久より洗礼を受ける。翌年、東京神学社に入学(東京帝国大学在籍のまま。1910年に神学社を卒業し、東大退学)。13年に北辰教会(現・札幌北一条教会)牧師となる。18年に、東京神学社で教鞭をとりつつ、鎌倉教会(現・鎌倉雪の下教会)を牧する。1921-24年にエディンバラ大学などに留学、帰国後、25年に東京神学社神学校校長、戸山教会設立(30年に、信濃町教会と改称)。30年に、東京神学社と明治学院神学部を合併し、日本神学校を設立。32年頃より健康不調となり、34年みずから命を絶った。

自我の確立を目ざす格闘から十字架の恩寵によってのみ生かされるとの確信に至り、<福音的キリスト教>を提唱。説教者として、青年に大きな感化を与える。

『高倉全集』(10巻、1936-37)、『高倉徳太郎著作集』(5巻、1964)。

3. 植村より見た、近代日本のキリスト教思想形成の系譜

植村 高倉 東京神学大学の組織神学の伝統

波多野精一、キリスト教的宗教哲学

cf. 内村鑑三と無教会の系譜

F.ゼミの進め方

・次回4/16は、昨年度読んだテキストの内容について講義を行い、次回からの担当を決定する。
・毎回担当者が、テキストの内容を説明し、問題提起し(テキスト外の資料などを合わせて用いる)、議論を行う。担当者はレジメを用意する。残った問題は宿題とする(次回の冒頭で報告する)。

・必要な解説を行う(芦名)。

・成績はゼミでの発表によって評価し、夏期休暇の間にレポート作成してもらう。

G : 文献

より包括的な文献表としては、次のWebを参照。

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/user/sashina/sub8d.htm>

<http://www.bun.kyoto-u.ac.jp/user/sashina/sub9a1.htm>

Barrett, Kurian, Johnson (eds.), *World Christian Encyclopedia*. vol.1-2, second edition
Oxford University Press 2001

Scott W Sunquist (ed.), *A Dictionary of Asian Christianity*, Eerdmans Publishing 2001

国際基督教大学・アジア文化研究所編 『アジアにおけるキリスト教比較表』(創文社)

日本基督教団出版局編 『アジア・キリスト教の歴史』(日本基督教団出版局)

富坂キリスト教センター 鼓動する東アジアのキリスト教』(新教出版社)

鷓沼裕子 『史料による日本キリスト教史』(聖学院大学出版会)

隅谷三喜男 『日本プロテスタント史論』(新教出版社)

近代日本の形成とキリスト教』(新教出版社)

出口光朔 『近代日本キリスト教の光と影』(教文館)

土肥昭夫 『日本プロテスタント・キリスト教史』(新教出版社)

歴史の証言 日本プロテスタント・キリスト教史より』(教文館)

海老沢有道・大内三郎 『日本キリスト教史』(日本基督教団出版局)

中央大学人文科学研究所 『近代日本の形成と宗教問題』中央大学出版部

高橋昌郎 『明治のキリスト教』吉川弘文館

古屋安雄・大木英夫 『日本の神学』(ヨレダン社)

武田清子 『吐着と背教 伝統的エトスとプロテスタント』(新教出版社)

古屋安雄他 『日本神学史』(ヨレダン社)

石田慶和 『日本の宗教哲学』(創文社)

(植村、内村、波多野)

近藤勝彦 『デモクラシーの神学思想 自由の伝統とプロテスタンティズム』(教文館)

(植村、内村、海老名、吉野作造、南原繁)

佐藤敏夫 『植村正久』(新教出版社)

大内三郎 『植村正久 生涯と思想』(日本キリスト教団出版局)

武田清子 『植村正久 その思想史的考察』(教文館)

森岡清美 『明治キリスト教会形成の社会史』(東京大学出版会)

森本あんり 『アジア神学講義』(創文社)

芦名定道 『日本の宗教状況と宗教間対話の可能性』、Journal of the Institute of Asian Area
Studies, 釜山外国語大学 アジア地域研究所 2004年、1-18頁

東アジアの宗教状況とキリスト教 - 家族という視点から - 』

『アジア・キリスト教・多元性』創刊号 現代キリスト教思想研究会

2003年、1-17頁

芦名定道・金文吉 死者儀礼から見た宗教的多元性 - 日本と韓国におけるキリスト教の比較より - 、「人文知の新たな総合に向けて (21 世紀 COE プログラム「グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成」)」第二回報告書 [哲学篇 2] 2004 年、5-23 頁

アジア・キリスト教研究に向けて (1)」、

『アジア・キリスト教・多元性』第3号 現代キリスト教思想研究会 2005年、71-88頁

アジア・キリスト教研究に向けて (2)」、

『アジア・キリスト教・多元性』第4号 現代キリスト教思想研究会 2006年、43-62 頁

植村正久とキリスト教弁証論の課題」、

『アジア・キリスト教・多元性』第5号 現代キリスト教思想研究会 2007年、1- 頁